

今日のトピック 世界の「投信マネー」(2018年4月)

2018年3月は「新興国」ファンドへの資金フローに変化

株式ファンドへの流入が続くが、「新興国」が減少

- 3月の株式ファンドは全体で+100億ドルと2月(+62億ドル)より超過額が増加しました。内訳は先進国が+41億ドル(前月▲46億ドル)、新興国が+59億ドル(同+108億ドル)でした。
- 先進国の内訳を見ると「北米」が▲158億ドルでしたが、「アジア(注3)」が+147億ドル、「グローバル」が+126億ドルなどとなりました。「アジア」は他国・地域ファンドの出入りが少なく、ほとんどが「日本」(+147億ドル)でした。一方、新興国は、新興国全体に投資する「GEM(注4)」が+37億ドル(前月+68億ドル)、「EMアジア(注5)」が+8億ドル(同+31億ドル)とともに減少しました。「EMアジア」では「中国」が+10億ドル(前月+19億ドル)と他の国・地域の流出超を上回る流入超となりました。

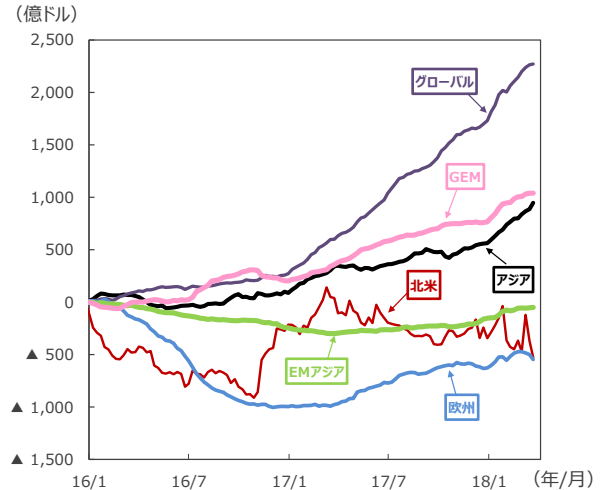
債券ファンドは再び流入超だが、「新興国」が流出超

- 3月の債券ファンドは+21億ドルと流入超に転じました(前月▲26億ドル)。内訳は先進国が+30億ドル、新興国が▲9億ドルでした。先進国は、「アジア」が流出超を継続しましたが、「グローバル」、「北米」、「欧州」が小幅ながら流入超に転じました。一方、「新興国」は中心となる「GEM」の流入超過額が減少する中、「EMアジア」の流出超過額が増加したため、流出超に転じました。

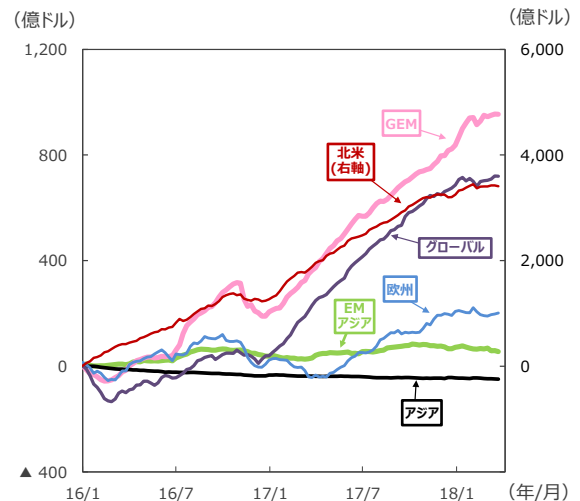
「アジア」株式以外は流入超過額が細る

- 3月は前月に比べて、資金の流入超過額が細りました。2016年1月からの資金フローの累積額を見ると、株式ファンドでは「アジア」以外、債券ファンドでは主要地域すべてにおいて流入超過ペースが鈍化しています。米・欧の金融政策が正常化する中、市場は長期金利の上昇を意識せざるを得ない局面にあることやトランプ大統領の貿易交渉等対外政策についての不透明感の高まり等が背景と考えられます。流入額の復調には外部環境の透明性が高まるのを待つ必要がありそうです。

【主要地域別株式ファンドの資金フロー】



【主要地域別債券ファンドの資金フロー】



(注1) EPFRグローバル：米国に本社を置く金融商品の調査会社。2018年2月末現在32.5兆ドル規模の世界のファンドの資金フローデータを持つ。
 (注2) データは2016年1月～2018年3月。週次ベース。2016年1月からの累計。
 (注3) 「アジア」は日本、豪州、ニュージーランド、香港、シンガポール。
 (注4) 「GEM」はGlobal Emerging Markets(世界の新興国市場全体に投資するファンドの総称)。
 (注5) 「EMアジア(新興アジア)」は中国、インド、韓国、台湾、インドネシア、マレーシア、フィリピン、タイ、ベトナム、パキスタン、バングラデシュ。
 (出所) EPFRグローバルのデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

ここも
チェック!

2018年3月29日 米国経済と長期金利の見通し(2018年3月)
 2018年3月26日 日本株は年初来安値、下落の主因は米国発

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。